

建設関連ニュース

●第3回コンストラクション甲子園、エントリー受付開始

高校生が建設業や防災等に関する知識を競い合う第3回コンストラクション甲子園のエントリー受付が開始された。エントリー受付期間は、2024年8月20日(火)～10月30日(水)で、1地区20組40名限定の先着順。同大会は若者に建設業界への興味関心や理解を深めてもらうため22年度から開催している。本年度は地方予選を11月30日に、決勝大会を1月25日に予定。高校生は2人一組のチームで出場。予選では建設や防災等に関するクイズで知識を競い、上位チームが決勝大会に進出する。決勝大会ではクイズのほか、実技試験に取り組み、優勝チームには沖縄旅行が贈呈される。

●道建設部と北保証が意見交換(道、北保証)

8月7日、道建設部と北海道建設業信用保証(株)(以下、北保証)はホテルポールスター札幌で意見交換会を開催した。本年度建設関係予算や担い手確保・育成に向けた取組等について情報共有を図ったほか、双方の知見等を踏まえ意見を交わした。また、北保証は公共工事に係る資金を早く市中に回し、地域経済に寄与することを目的に前払金、中間前払金、出来高融資等に努めているとし、「広範囲にわたり資金を循環させる仕組みが市町村等に広く波及されるようご協力いただきたい」と述べるとともに、工事監督員らに対する制度への理解の周知を図るよう呼び掛けた。

●開発局と北保証が意見交換会(開発局、北保証)

7月16日、開発局と北保証は札幌第1合同庁舎で意見交換会を開催した。総合評価落札方式や働き方改革をめぐる最新の取組、2024年度保証事業重点推進方針等について情報を交換。担い手確保・育成等の業界が抱える課題解決に向けた取組についても意見交換を行った。また、北保証は開発局に対し、全国各地で相次いで発生する大規模自然災害や、時間外労働の上限規制適用等を踏まえ「引き続き公共事業予算の確保を強くお願いしたい」と要請した。

●25年度政府税制改正へ要望(日建連)

日本建設業連合会は、2025年度の政府の税制改正に対する要望をまとめた。重点要望事項には、印紙税の廃止と軽減措置の拡大・延長を引き続き求める一方、地方公共団体発注工事への電子契約の導入を追加した。国交省の直轄工事等では、印紙税が不要な電子契約が導入されているほか、クラウド型の電子契約を導入する都道府県も増えているといった背景を踏まえ、地方公共団体発注工事に電子契約を導入するよう、税制改正の機会を通じて初めて要望することとした。

●新たな北海道総合計画を策定(道)

7月11日、本年度から概ね10カ年を計画期間とする新たな北海道総合計画が策定された。「北海道の力が日本そして世界を変えていく一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる地域を創る」を目指す姿とし、政策展開の基本方向を明示。食や観光で構成する「潜在力発揮による成長」、社会経済の基盤整備および強靱化を柱とする「各地域の持続的発展」等をテーマに、北海道の個性と魅力を生かした地域づくりを展開する。鈴木直道知事は「道民一体となって未来志向の取組を進める」とし、各分野の施策推進に意欲を示した。

●2025年度予算の概算要求を発表(国交省)

8月27日、国土交通省は、2025年度予算の概算要求を発表した。一般会計の国費総額は前年度比18.1%増の7兆330億円を求め、公共事業関係費は18.8%増の6兆2,899億円を求める。

●2025年度道開発予算の概算要求を公表(北海道局)

8月27日、北海道局は2025年度北海道開発予算の概算要求を発表した。一般公共事業費に当たる北海道開発事業費は、国費で前年度当初比20%増の6,734億円、推進費等を除く事業費で20.2%増の8,431億円を求める。このほか、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」、「近年の資材価格の高騰の影響等を考慮した公共事業等の実施に必要な経費」等については、事項要求を行い、予算編成過程で検討するとした。

親の難病治療があり、四半期に一度大学病院に同行している。複数の診療科に行くのだけどこ処も比較的高齢な患者さんであふれ、看護師さんはその対応で大変そうだ。先日、某診療科で診察を待っていた時だ。同じ長椅子の端に座っていた高齢の男性が椅子から崩れ落ちるように倒れた。看護師さんがさっと駆け寄り声掛けをして男性を抱きかかえる。看護師さんの声は普段と全く違うはっきりとしてよく通る確信のある声。男性は意識を失うが、声掛けを続け心臓マッサージに入る。救命講習の際の私の手際とは全く異なるものだ。緊急コードが発令され医師・看護師が集まる。20人以上か。ストレッチャーに移し処置室に入り、その後見えないようにガードされ集中治療室(だと思ふ)に移動する。この間10分とかかかってない。この大学病院の緊急対応能力には賞賛の言葉しか出ないが、実は、同じような出来事を別の総合病院で見たことがある。やはり対応は素晴らしい。組織の底力のような能力は緊急時に現れると思う。災害対応にあたる建設企業もまた同様だろう。非常時に頼れる組織・企業の存在は、人々に安心をもたらす。こうした能力は一朝一夕のものではなく、その維持には大きなコストを要するのかもしれない。しかし、建設業に入る担い手に期待されるのもまたこの水準の力であるとも思う。(H.S)